

遠絡統合療法 基礎医学セミナー

6 まとめ

1

●なぜ遠絡統合医学は、原因不明の症状や難治性症状に適用できる治療法なのか？

①ラインの流れは生体の現象と密接な関係があるから

②ライン同士の関係を調節する確実な理論をもっているため

2

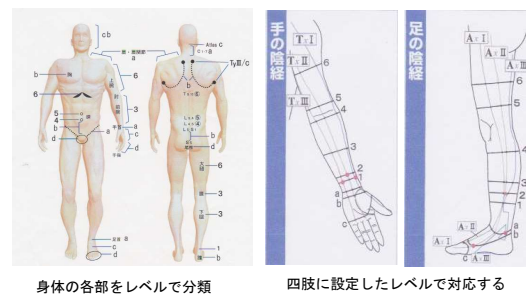
遠絡統合療法で始めに行うこと

①疼痛ラインの見極め



3

身体の対応からみたレベル



4

次に行うこと

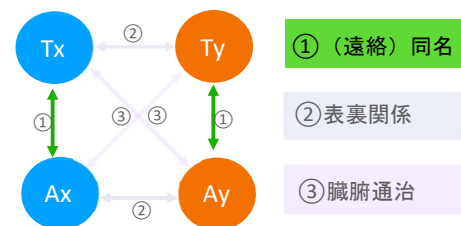
②治療方針と治療ラインの選定

6つの治療方法から行うものを選ぶ

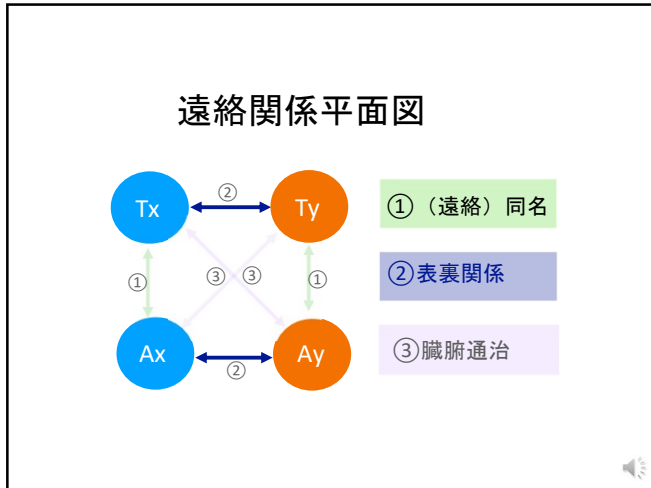
- | | | |
|----------|---|-----------|
| (1) 接続 | ▶ | 流れの再建 |
| (2) 相克 | ▶ | 頑固な障害物の破壊 |
| (3) 相輔 | ▶ | 流れの拡張 |
| (4) 補強 | ▶ | 流れの補強 |
| (5) 増流処置 | ▶ | 流量を増やす |
| (6) 牽引瀉法 | ▶ | 流速を速める |

5

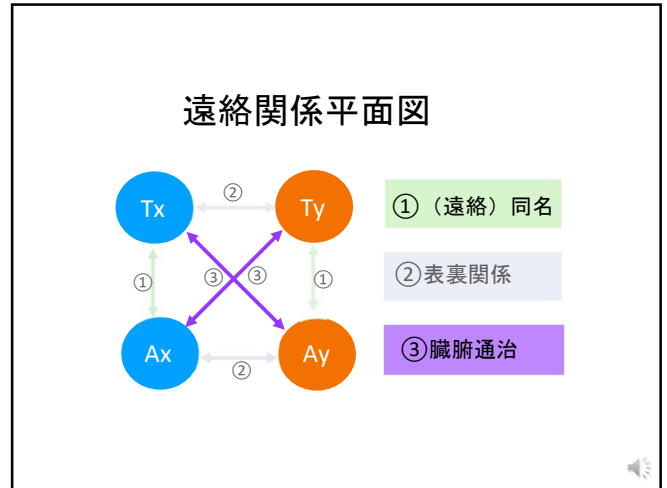
遠絡関係平面図



6



7

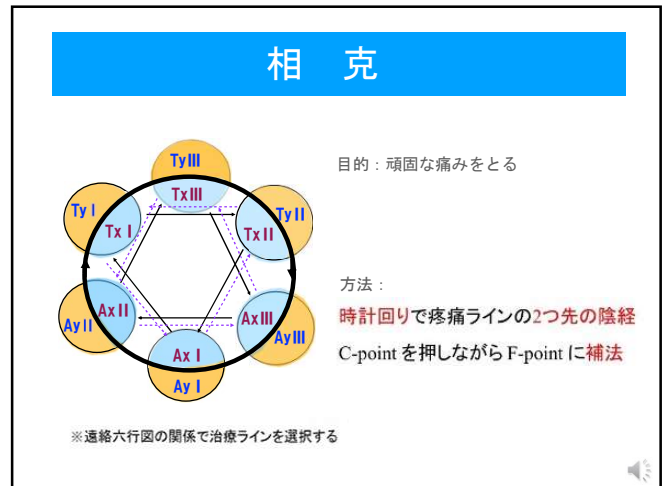


8

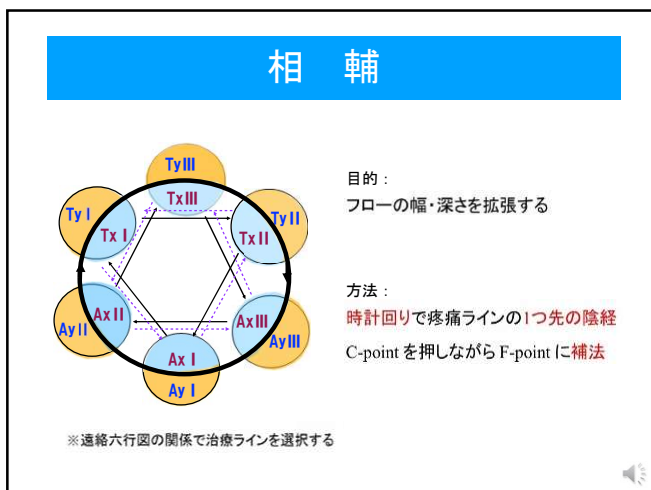
接続の変換

	TA変換	xy変換	ライン変換
同名 (陽経のTA変換)	T \square A	—	—
	A \square T	—	—
遠絡同名 (陰経のTA変換)	T \square A	—	I \square II III
	A \square T	—	I \square II III
表裏 (陰陽の変換)	—	x \square y y \square x	—
臓腑通治 (TA変換) (陰陽変換)	T \leftrightarrow A	y \square x x \square y	I \square II III I \square II III

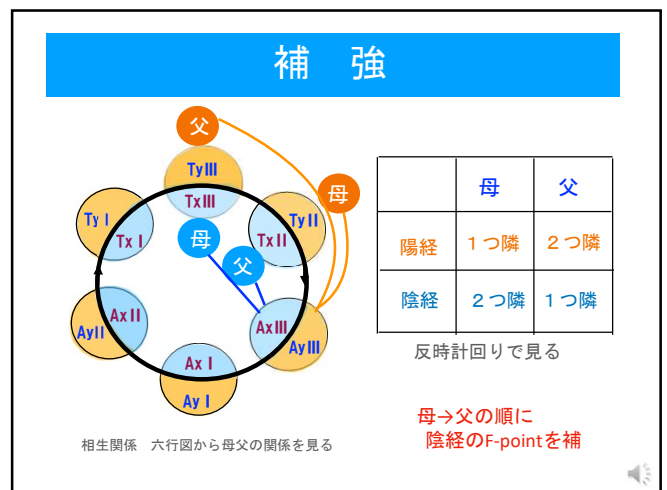
9



10



11



12

増流処置

	母	父
陽経	1つ隣	2つ隣
陰経	2つ隣	1つ隣

反時計回りで見る

母父の陽経、
F-point「6」を瀉

相生関係 六行図から母父の関係を見る

13

牽引瀉法

接続の本経治療の変法

フローの方向

末梢方向に瀉法することで流速を速めて滞りを解消する

陽経の走行で鋭角に曲がっている部位が滞りやすい点

14

同側対側の法則

*疼痛ラインに対する治療ラインの関係

		陰(x)	陽(y)	
T 手	Tx I	対側	Ty I 対側	
	Tx II	対側	Ty II	
	Tx III 同側	Ty III	同側	
A 足	Ax I	対側		Ay I
	Ax II	対側		Ay II
	Ax III	対側	Ay III	

15

同側対側の法則

左右どちらの治療ラインを使うか決める法則

疼痛ラインを基準とする

治療ライン：陽経(y)	原則	疼痛ラインと同側
	例外	Ty I は対側
治療ライン：陰経(x)	原則	疼痛ラインと対側
	例外	Tx III は同側

16

治療点

「遠絡統合療法の治療点」と「経穴」の違い

経穴 治療点の位置で治療対象が決まっている

遠絡統合療法 同じ治療点でも治療対象や治療目的によって意味や使い方が変わる

治療点には異なる2つの役割がある

C-point	陰陽のラインをつなぐ点
F-point	患部と対応する点

17

C-pointの活用

- (1) 接続 疼痛ラインと治療ラインの陰陽が異なる時にC-pointが必要
- (2) 相輔・相克 C-ポイントは常に必要
- (3) 増流処置 疼痛ラインと治療ラインの陰陽が異なる時にC-pointが必要
- (4) 牽引瀉法 治療ラインは陽経を使うので疼痛ラインが陰経の時はC-pointが必要

18

症状の発生

- (1) 局所性
- (2) 中枢性

25

治療方針を決める大切な病態の診方



26

局所症状について

- (1) 外傷などの明確な原因があること
- (2) 発症初期に局所に炎症所見があること
※炎症の四主徴: 発赤、腫脹、発熱、疼痛
- (3) 症状の局在が移動しないこと
- (4) 多くの場合、一側性であること

※ 遠隔療法では、局所性症状に該当しない場合は、すべて中枢性症状と考える

※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻ることが多い

27

治療効果を上げるために

- (1) 絶対に治るという意識で治療すること
- (2) 疼痛ラインをしっかりと見極めること
※ 頸部、肩部はラインの判断が特に難しい
- (3) 治療ポイントを正確に押さえること
※ C-point は特に正確に取ること
- (4) 局所性か中枢性か見極めること
※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻ることが多い

28